

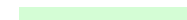
第60回日本図書館情報学会研究大会@九州大学  
2012年11月17日



# 日本の研究者による学術情報の 利用実態とその変化

— SCREAL2011調査の分析 —

小山憲司(日本大学文理学部)  
佐藤義則(東北学院大学文学部)  
倉田敬子(慶應義塾大学文学部)  
逸村裕(筑波大学図書館情報メディア系)  
三根慎二(三重大学人文学部)  
竹内比呂也(千葉大学文学部)  
土屋俊(大学評価・学位授与機構)





# 本発表の背景

---

- 学術情報流通を取り巻く環境が変化するなか、学術情報の利用者である研究者の利用動向を把握することは、大学図書館をはじめとする各種サービス機関が適切なサービスを提供するうえで欠かせない。
- 学術図書館研究委員会 (SCREAL) (2007年設立)
  - 学術情報の利用に関する調査 (SCREAL2007)
  - 学術情報の利用に関する調査 (SCREAL2011)



# 調査の目的

---

## 1. 電子ジャーナルの利用動向調査

- 学術情報の利用環境の変化が、研究者の情報需要、および大学図書館に対する期待と要求に具体的にどのような影響を与えているか？

## 2. 論文のリーディング調査

- 研究者が、どのように論文を発見し、収集し、活用しているか？



# SCREAL2011の概要

---

項目	内容
調査対象機関	45機関 (国立大学21、公私立大学15、国立研究所9)
調査期間	2011年10月12日～12月31日
調査方式	Webアンケート (メールによる依頼→参加申込→回答)
回答数	3,922 (完全回答数; 推定回答率6.04%)

---



# 調査結果

利用した論文の  
掲載雑誌

論文の  
探索方法

論文の  
読みの形態

研究者  
の専門  
分野

学術雑誌の  
電子化と  
論文利用



# 利用した論文の掲載雑誌

- 掲載雑誌名欄(自由記述)を精査

カテゴリ	件数
①雑誌名特定	3,246
②出版社特定	163
③同一誌名などで特定不能	52
④図書, 会議録など	138

洋雑誌 2,644件 (77.6%)  
和雑誌 765件 (22.4%)

# 論文掲載誌を発行する出版社



	出版社	件数	割合
1	エルゼビア	571	16.7%
2	米国化学会 (ACS)	244	7.2%
3	ワイリー・ブラックウェル	214	6.3%
4	米国物理学会 (APS)、米国物理学協会 (AIP)	193	5.7%
5	ネイチャー・パブリッシング・グループ (NPG)	188	5.7%
6	シュプリンガー	109	3.2%
7	オックスフォード大学出版局 (OUP)	62	1.8%
8	米国電気電子学会 (IEEE)	61	1.8%
9	セイジ	46	1.3%
9	米国科学振興協会 (AAAS)	46	1.3%
	10グループ合計	1,734	50.9%
	全体	3,409	



# 分野別の出版社集中特性

## 1. 特定出版社発行雑誌に集中

物理学	APS+AIP	62.5%
化学	ACS	46.3%

## 2. 主要出版社の割合が比較的高い

### エルゼビア

分野	割合%
数学	30.8
工学	26.0
歯学	25.2

### NPG

分野	割合%
医学	12.7
生物学	15.7
畜産獣医学	10.9



# 論文の探索方法

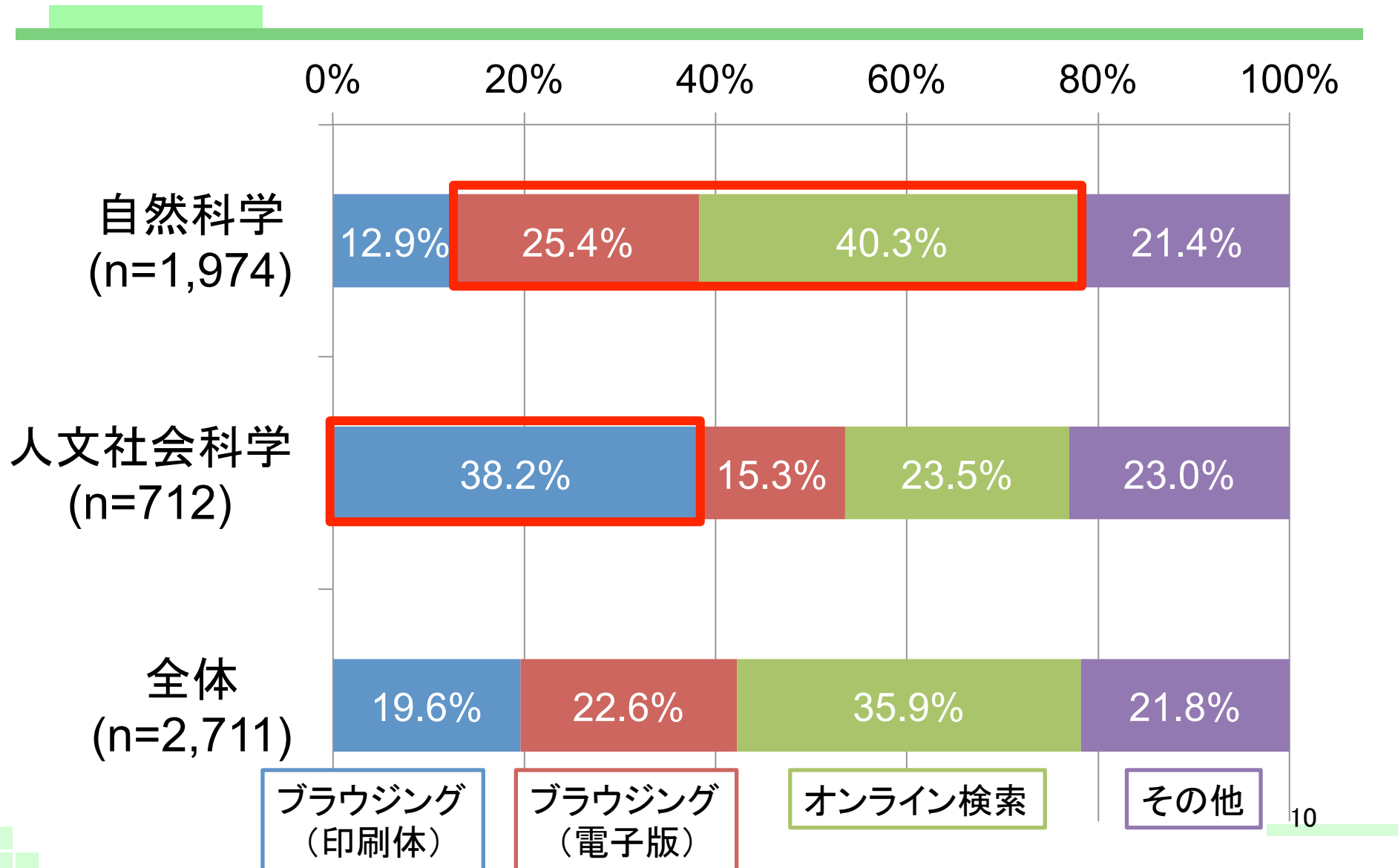
## 自然科学

選択肢	割合%
索引/抄録 データベース	24.6
機関購読の 電子ジャーナル	20.9
検索エンジン	9.6
個人購読の 印刷体雑誌	8.8
人から	6.8

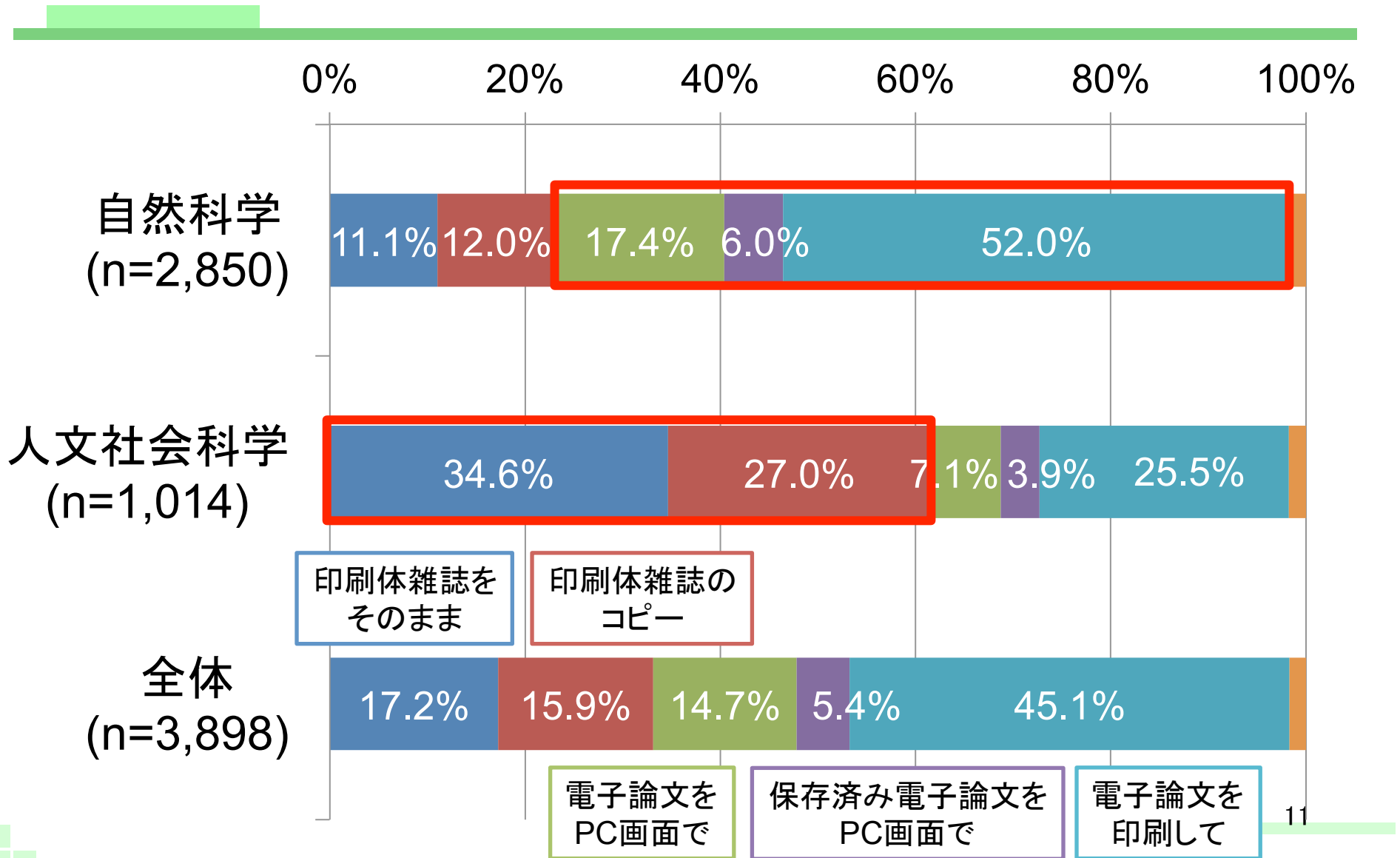
## 人文社会科学

選択肢	割合%
個人購読の 印刷体雑誌	24.4
索引/抄録 データベース	11.8
機関購読の 電子ジャーナル	10.8
機関購読の 印刷体雑誌	9.1
検索エンジン	8.4

# 論文の探索方法(カテゴリー別)



# 論文の読みの形態

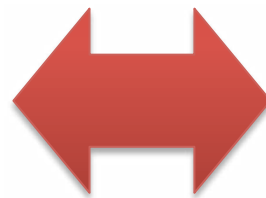


# 学術雑誌の電子化と論文利用

論文の  
探索方法

論文の  
読みの形態

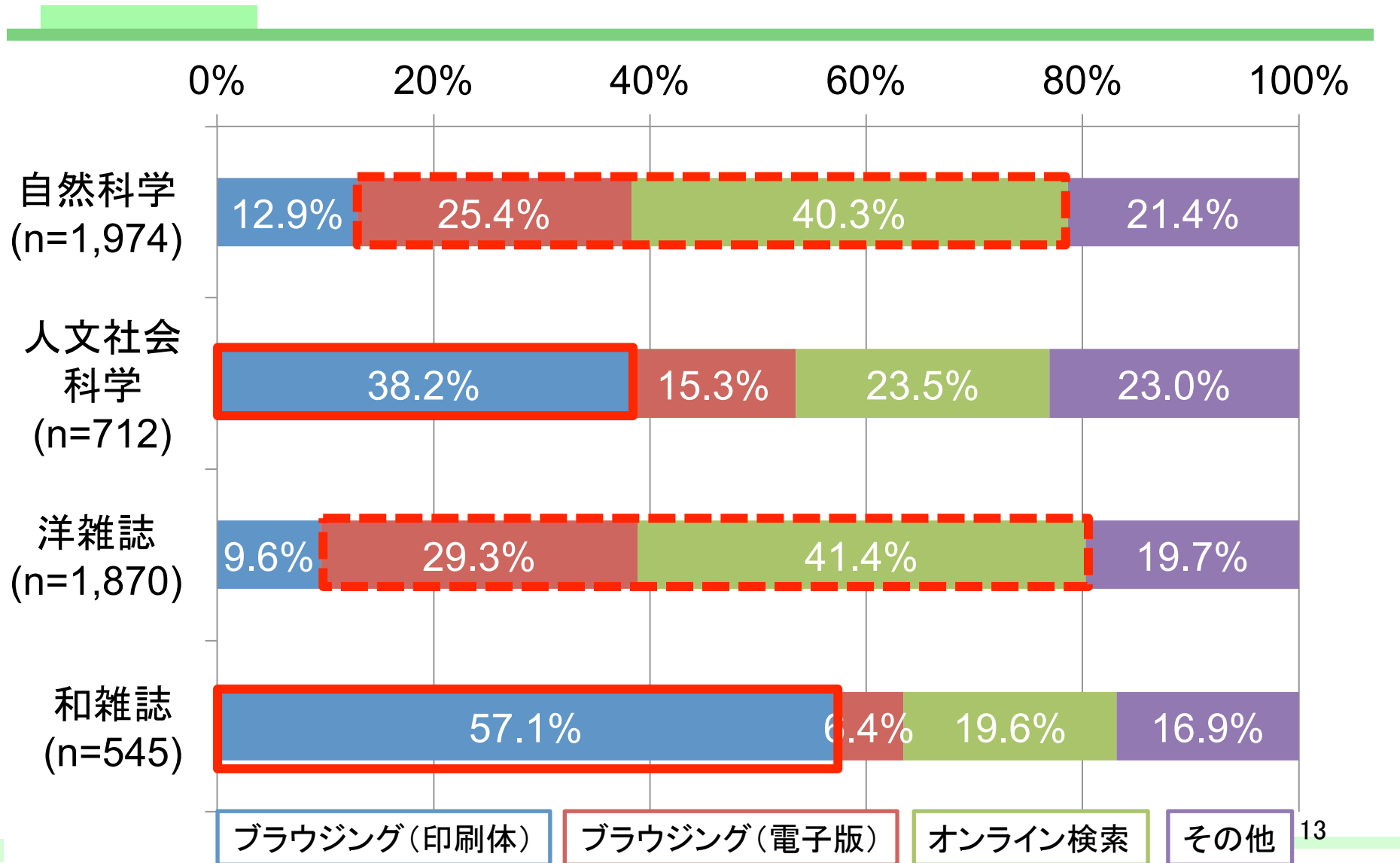
電子ジャーナル  
の浸透度



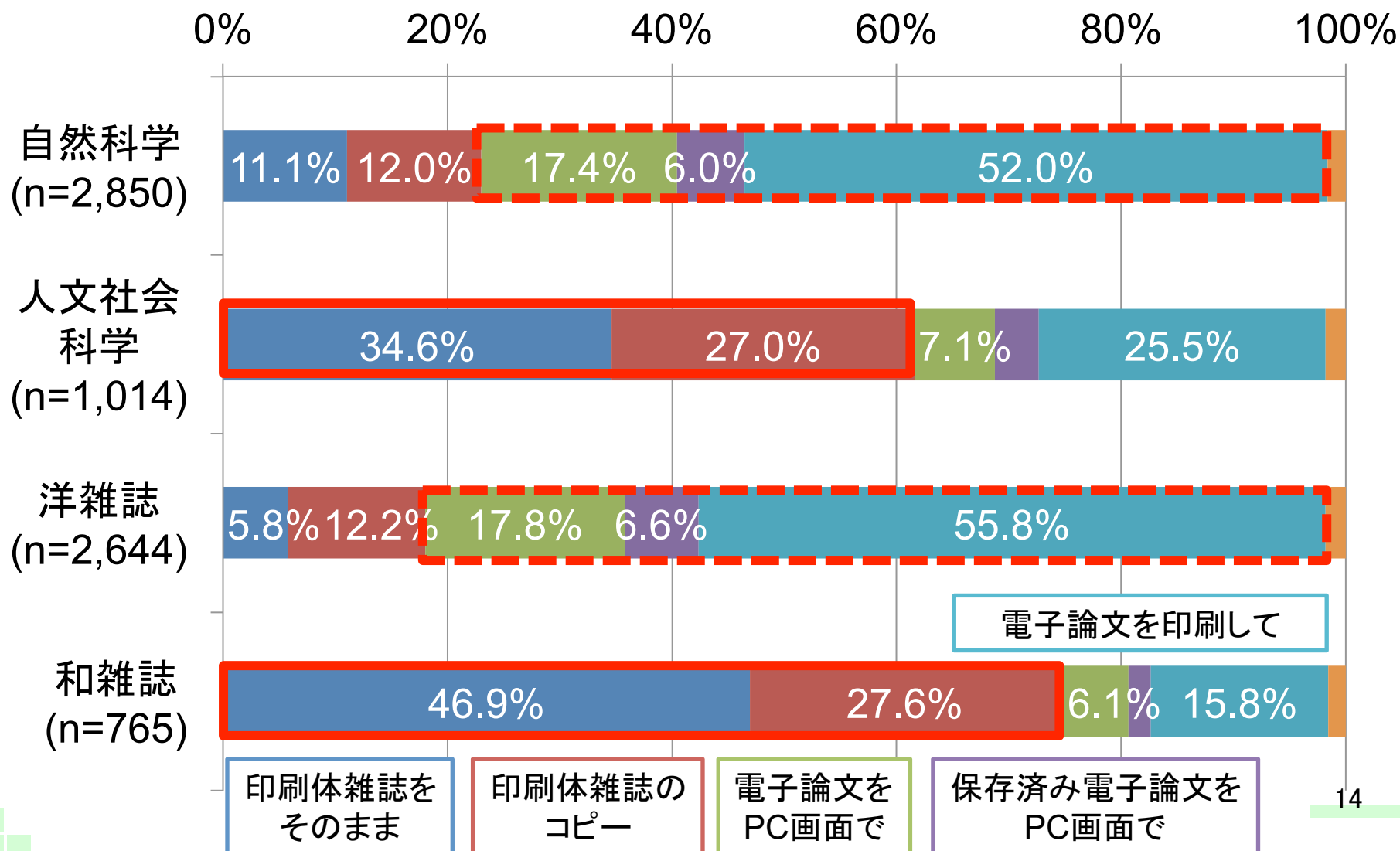
研究者の  
専門分野

論文掲載誌  
(和洋別)

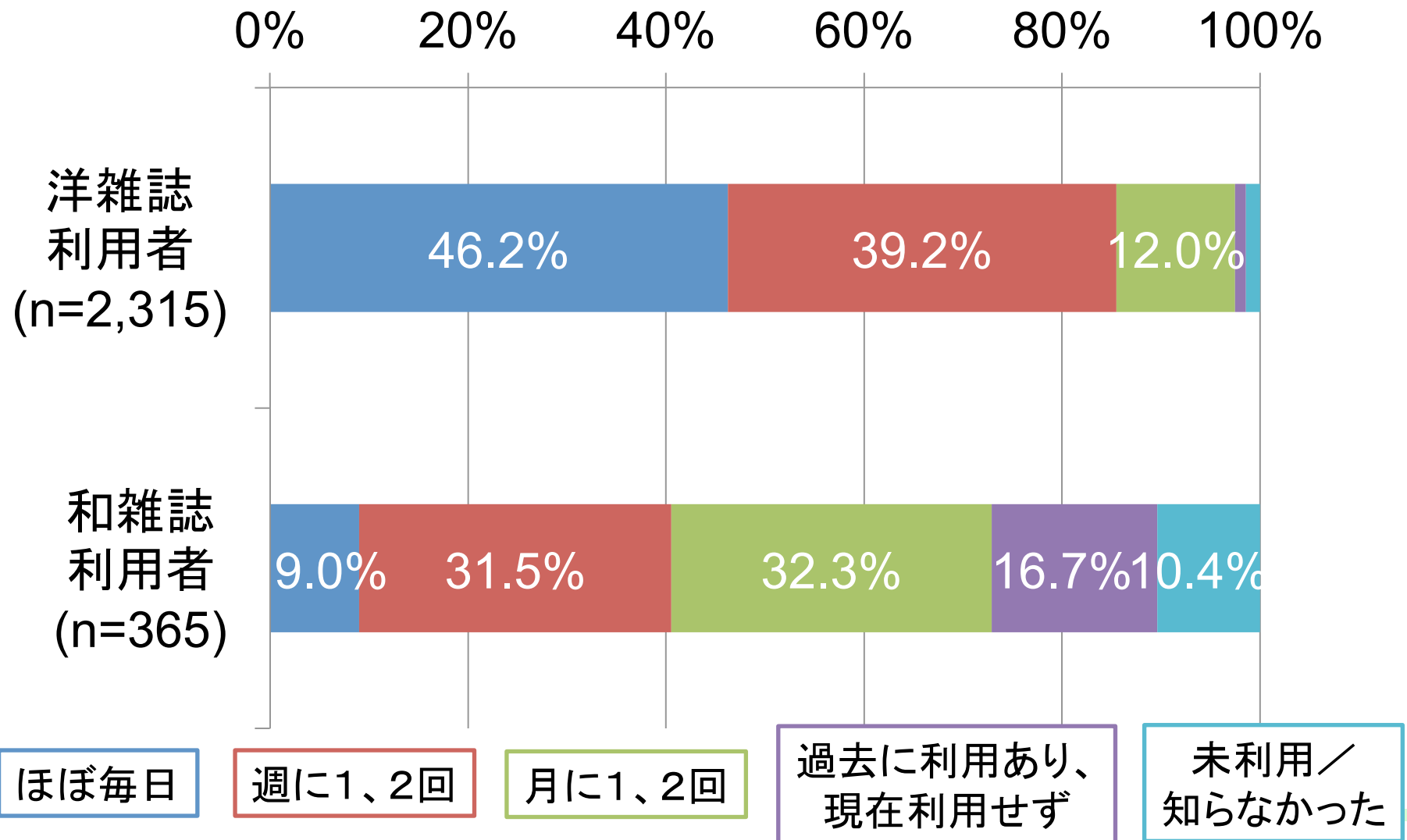
# 探索方法と分野別、和洋別の比較



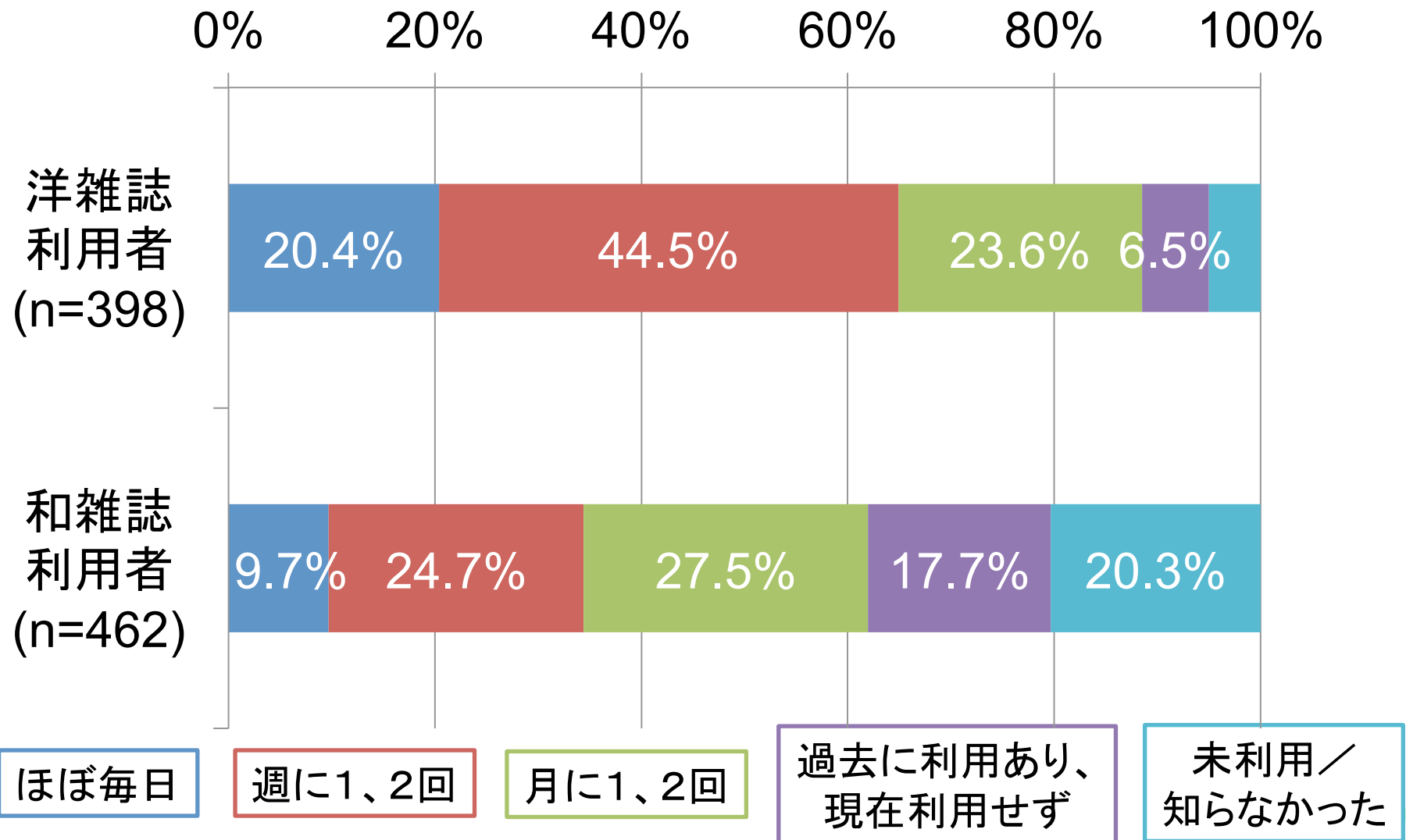
# 読みの形態と分野別、和洋別の比較



# 電子ジャーナルの浸透度（自然科学）



# 電子ジャーナルの浸透度（人文社会）





# 電子ジャーナルの浸透度と 学問分野、和・洋雑誌の関係

- 自然科学分野に属する洋雑誌利用者と和雑誌利用者では、電子ジャーナルの利用頻度に有意差が認められた
  - $X^2=531.037$ 、 $df=4$ 、 $p<.00$
- 人文社会科学分野においても、同様の結果が確認された
  - $X^2=101.725$ 、 $df=4$ 、 $p<.00$

# まとめ(1)

- 約8割が洋雑誌に掲載された論文である
- 上位10グループの雑誌に掲載された論文が半数を占める
- 自然科学分野
  - 洋雑誌の利用が多い
  - 電子的な探索、入手、利用が普及している
- 人文社会科学分野
  - 和雑誌の利用が多い
  - 印刷体の学術雑誌の利用が主流を占める

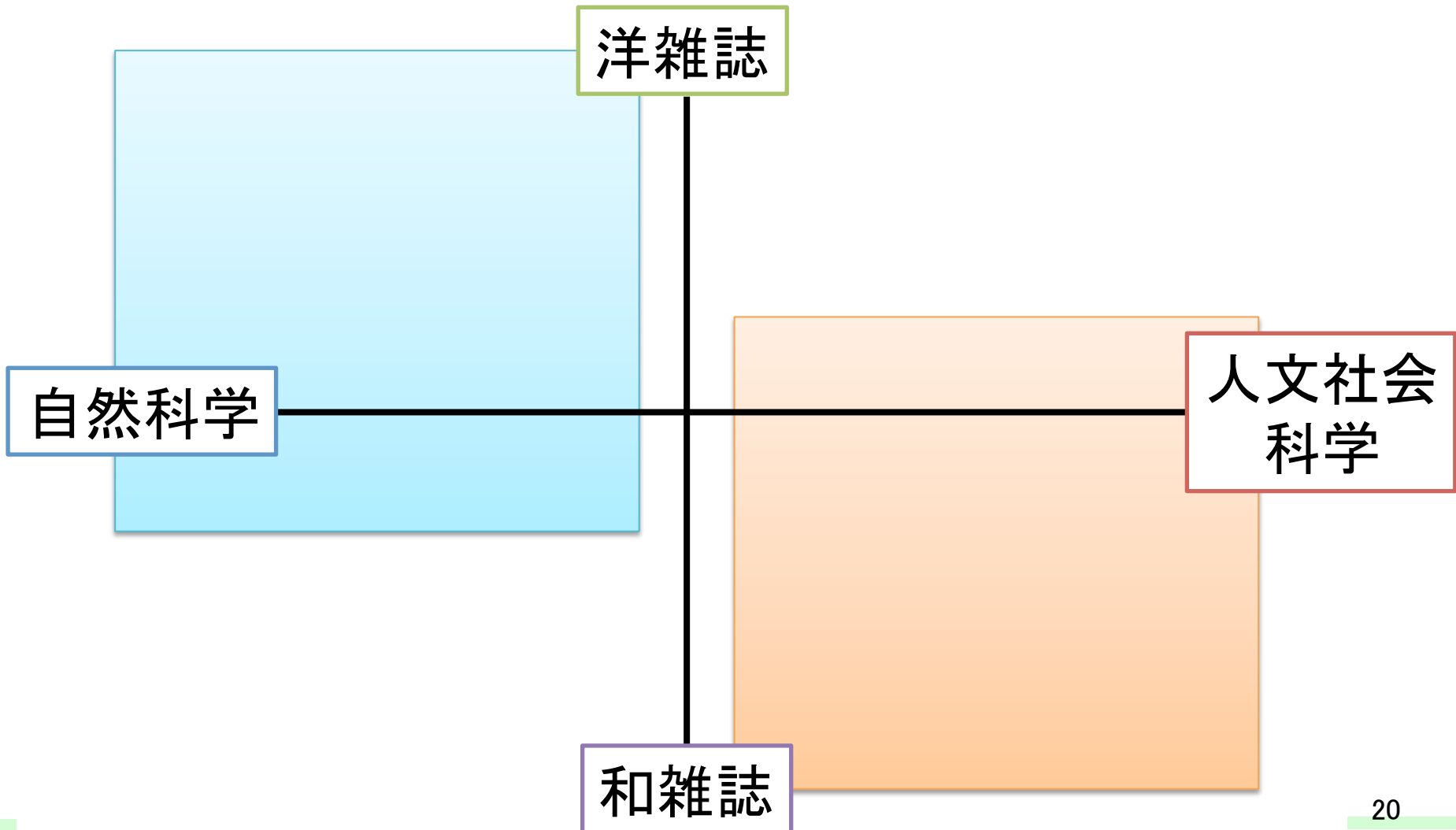
## まとめ(2)

- 学術情報の利用において、印刷体を主とするか、電子版を主とするかは、自然科学および人文社会科学という分野による傾向の差異よりも、論文掲載誌が洋雑誌か、和雑誌かという区分での分析結果に、より明確に表れた

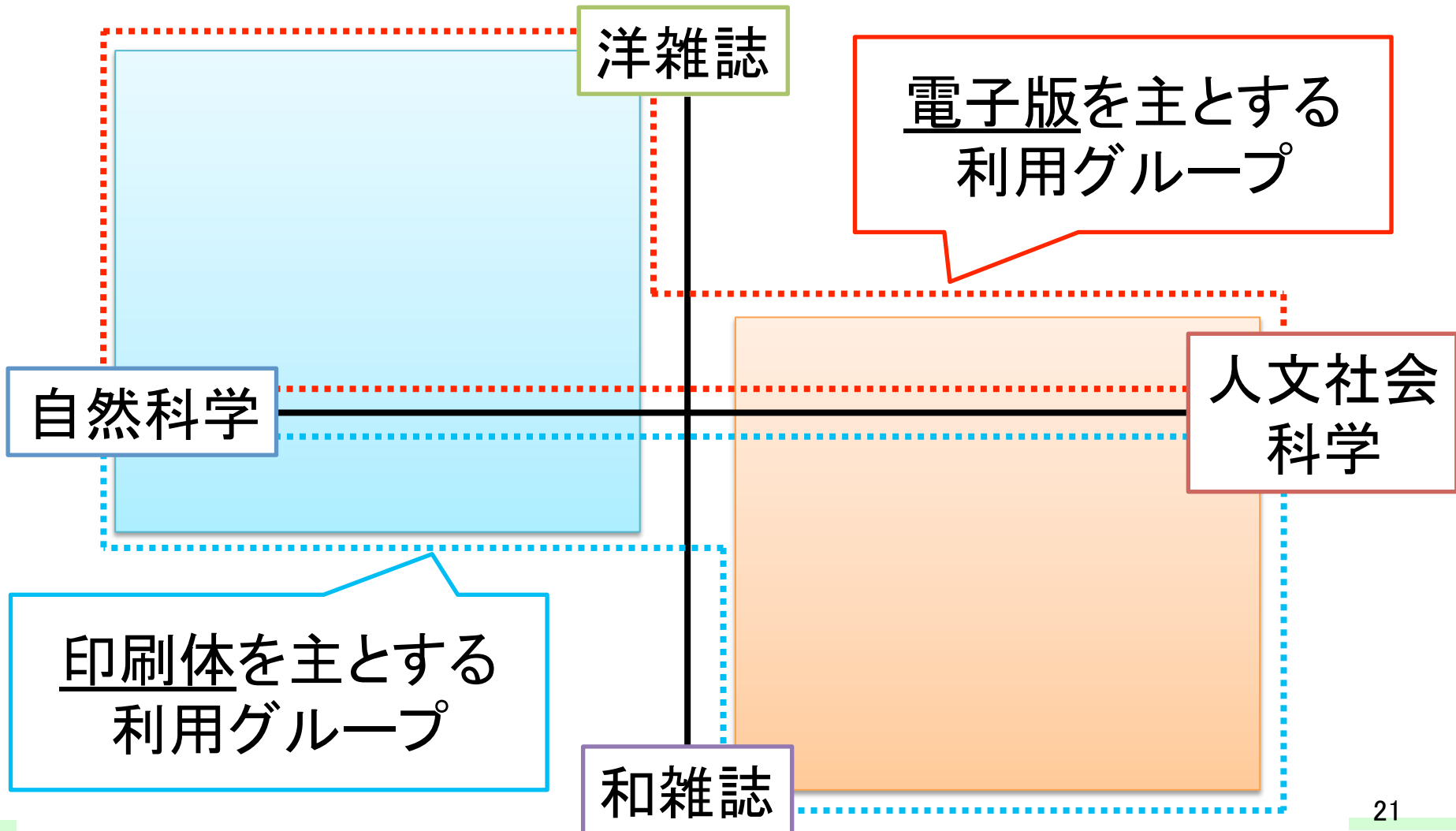


- 学術雑誌の電子化の進展状況が影響しており、そのことが自然科学と人文社会科学分野の研究者の利用動向に差をうみだしているものと考えられる

# まとめ(2)



# まとめ(2)





ご清聴ありがとうございました

